

ふれあい通信



佐藤 武臣

- 夏井出身
- 神奈川支部

弥生3月のころ

私が小野に生を享けたのは昭和19年、太平洋戦争も陰りを見せ、日に日に戦況は悪化の一途を辿っていた頃である。小野の上空にも米軍機が飛び交うようになって町民の多くが戦況の思わしくないことを悟ったという。未だ赤子だった自分に戦争の記憶はないが、1歳に満たない昭和20年8月で戦争は終わった。ただ子どもながらも戦後の混乱は微かな記憶として残っている。家が農家だったので食べ物に不自由はしなかったが、この頃は、額面だけのお金より、この「コメ」という現物が農家の強みを発揮していた。とにかくこの米を求めている色々な行商人

が農家を回り歩いて商売を展開していた。

私が夏井一小に入学したのは、ちょうどこの頃の昭和26年4月、通学区は現在と変わりはないが、入学当初は中学校校舎も併設されていたので、生徒が収容し切れず、廊下に立って授業を受けていた生徒、幼い弟、妹を連れて来て学習していた生徒も結構いたことを覚えている。こういう生徒は先生の判断で自由下校が許されていた。

私が入学した時の担任教員は岩城富美子先生と言って、元法務大臣 岩城光英さんの叔母に当たる方だったとは近年、岩城さんに聞いて初めて知った。現在郡山に住んで今なお健在である。当年91歳と言う。

私も齢75歳を迎えたが、時折この頃の事を夢に見ることがある。目覚めた後に、なぜこんな夢を見たのか考えると、小学校4、5年生の頃の出来事が多い。最近見た夢として「ひたし針」を掛けて魚獲りをしたことが上げられる。この漁法は、簡易的に川辺の篠竹を切ってきて“ホトケ泥鰌”を餌に、前日の夕刻、竿ごと水中に沈めて帰り、翌朝上げに行くと、立派な“ヤマメ”が掛かっていた。14、5本掛けると2、3匹は獲れたので、結構効率のいい漁法だった。ただ仕掛けるときに川に滑り落ちることも多く、残雪の残る今頃の季節では結構危険も伴っていた。注意深く行うことが必要だ。

弥生3月はそのような夢を見易い季節なのかも…。

地域包括支援センターからのお知らせ

地域包括支援センターは、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心した生活を続けられるように支援を行う機関です。

◆対象者

高齢者およびその家族

◆利用料

無料

◆さまざまな相談ごと

毎日の生活の中で困っていることや心配なことの相談に対応します。

介護に関する相談や悩み以外にも、福祉や医療など、なんでもご相談ください。

◆介護や健康づくりのお手伝い

要支援1・2と認定された方への支援
生活機能の低下がみられた方への支援
その他高齢者の皆さんへの支援を行います。



◆権利を守ること

財産管理が不安になってきた
悪質な訪問販売にお困りのとき
虐待の早期発見・防止「もしかしたら」と思ったら、ご連絡、ご相談ください。

◆暮らしやすい地域のために

皆さんが住み慣れた地域で、安心して暮らせるよう、地域のネットワークづくりを進めます。

◎小野町地域包括支援センター

(小野町役場分庁舎内)

小野町大字小野新町字品ノ木 111

☎ 72-2128

FAX 61-6102

Mail ono-houkatu@wind.ocn.ne.jp

